

横峰寺道

国史跡に指定

法安寺跡、永納山城跡に続き、市内三つ目となる国史跡に指定された横峰寺道。古くからお遍路さんが歩いた道をたどると、豊かな自然と歴史の重みを身近に感じることが出来ます。市内にはこんなすてきな道がありました。



横峰寺道を歩いていたお遍路さんに話を聞いてみました

Interview



兵庫県から来た
中島哲夫さん

初めての歩き遍路です。定年退職後、健康のために歩き始めました。いつかは遍路をと考えていたが、ずっと自宅で母を介護しており、なかなか実現しませんでした。6月に母が亡くなって、百か日が過ぎ、出発しました。供養も兼ねて歩いています。この道はよく整備されていると思います。



▲木立の中を抜ける遍路道が続きます



▲英語表記のある道しるべ



▲シャクナゲの花でも有名な横峰寺

四国遍路とは

弘法大師・空海ゆかりの札所八十八箇所を巡る四国遍路は、全長1400キロメートルに及ぶ回遊型の巡礼路です。開創1200年を経過した今でも、多くの人々が信仰や修行だけでなく、「癒やし」を求め、自分と向き合うために弘法大師の足跡をたどっています。遍路は、それを支える地域住民の「お接待」と合わせて、世界でも類を見ない巡礼文化であるといえます。

遍路道の形成

遍路道は長い時間を経て形成されたものですが、史料が少なく、その成立時期や経路を知るのには困難です。

空海をはじめ、さまざまな修行者が四国を巡り歩きました。このときの道が遍路道の原型とも考えられ、平安時代末にまとめられた「今昔物語集」や「梁塵秘抄」には、四国の海辺を回る修行道についての記述があります。



多くの一般庶民が四国遍路を行うようになった江戸時代に、遍路道は一応の確立をみたと考えられています。地域の人々の生活道や林道、農道などが遍路道として使われており、時代とともにルートも変遷しています。

史跡指定までの歩み

現在、四国4県で官民一体となった「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録を目指した活動が進められています。平成27年4月にはその価値が評価され、「四国遍路—回遊型巡礼路と独自の巡礼文化」として、初の日本遺産にも認定されました。

また、四国遍路の保存・継承を図るため、遍路道を国史跡に指定する取り組みも行われてきました。平成22年には阿波遍路道が、平成25年には讃岐遍路道が史跡指定されており、今回、横峰寺道と宇和島の仏木寺道を合わせた伊予遍路道、そして土佐遍路道が国史跡となりました。

横峰寺道の史跡指定にあたっては、平成27年度に遍路道の試掘調査や地形測量を実施



▲歴史を感じさせる丁石

横峰寺道の持つ価値

し、それらを基礎資料として今年の1月22日付で文部科学大臣に意見具申を行いました。それを受け、国の文化審議会が6月17日付で国史跡に指定するよう文部科学大臣に答申し、10月3日付の官報告示で国の史跡に指定されました。

値は極めて高いと評価されています。

今回、史跡指定されたのは県道石鎚丹原線の湯浪休憩所横の階段を上った先の土道から、第60番札所・横峰寺に至るまでのうち、約1・7キロメートルの区間です。

横峰寺の標高は、四国霊場では第66番雲辺寺、第12番焼山寺に次いで3番目の高さで、道中には勾配が急なところもあり、「遍路ころがし」の難所として知られています。

道沿いには、寺院までの距離を示す丁石が1丁(約109メートル)ごとに建てられています。また、古くから石鎚験道の中核であり、横峰寺道はその石鎚山岳信仰と密接なつながりを持った道でした。指定対象範囲は古道の保存状態も良く、丁石も残されているなど、文化的価値

今後に向けて

今回指定された区間は、市道でもあることから、引き続き適切な維持管理に努めるとともに、今後、四国4県が策定を予定している遍路道の保存活用計画に基づいた整備を検討していきます。地域の大切な財産である文化財を、皆で一緒に守っていきましょう。

問合せ 市庁舎新館4階
社会教育課
TEL 0897-52-1628